

完成度高いシヨパンソナタ3番

シヨパンの〈ソナタ第3番〉は、小山さんが1985年のシヨパン・コンクールに出場されたとき第3次予選で演奏し、CDのデビュー・アルバム(1987年、2019年再発売)も、この曲がメインでした。ずいぶん長く弾いていらつしやいます。

「ほんと。シヨパンの〈ソナタ第3番〉は、私にとっては古くからのレパートリーです。シヨパンという作曲家は、もちろん繊細ですけど、シューマンほど感傷的・感情的ではないと思います。もっと、ある意味で理性的で高貴で、完成されていて、美しく、しかも決然としています。ペソナタ第3番〉は大きな作品ですが、あまり大作を作っていなかったシヨパンが晩年になって、こんな大きなソナタを作るのは、一種の覚悟みたいなものがあったのではなかったかと感じます。やはりある種の決意がなければ、このような4楽章のソナタは取り組めませんものねですから〈ソナタ第3番〉には、確固とした構築性があります。第1楽章の動機(第1主題)はしっかりといて、優美な

小山 実稚恵 (こやま・みちえ)

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、シヨパン国際ピアノコンクールの2大コンクールに入賞以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽と、常に第一線で活躍し続けています。

2006年から2017年まで、大阪・東京をはじめ全国6都市で行われた12年間・24回リサイタルシリーズ「ピアノ・ロマンの旅」は、演奏と企画性が高く評価されました(その成果により、大阪では2018年度の大阪市市民表彰を受けています)。続いて2019~22年には『ベートーヴェン、そして…』シリーズ演奏会を行いました。

これまでに国内外の主要オーケストラ多数、および国際的に著名な指揮者らと共演しています。協奏曲のレパートリーは60曲を超えます。

東日本大震災以降、被災地でも演奏を行い、仙台では被災地活動の一環として自ら企画立案した「こどもの夢ひろば“ボレロ”」を開催しています。

CDはソニー・ミュージックジャパンインターナショナルと専属契約を結び、これまでに33枚をリリース。最新盤は、自身が愛してやまない作曲家の名曲(小品)を集めた『モノローグ』です(2023年5月リリース)。著書に『点と魂と』(KADOKAWA)、平野昭氏との共著による『ベートーヴェンとピアノ「傑作の森」への道のり』と『ベートーヴェンとピアノ 限りなき創造の高みへ』(いずれも音楽之友社)があります。

これまでに2005年度文化庁芸術祭大賞、2013年度東燃ゼネラル音楽賞本賞、2015年度文化庁芸術祭優秀賞、2016年度芸術選奨文部科学大臣賞等を受賞。2017年度、紫綬褒章を受章しています。

右の写真は最新アルバム『モノローグ』のジャケット



第2主題と対照させています。第2楽章にはシヨパンの刹那的な思いを感じますが、シューマンのように乱れない。そして軽妙でもありません。そして第3楽章は深い夢の中に高貴な旋律が絶妙に歌われます。まさにシヨパンの天才の美ですね。第4楽章にはこの大きなソナタの締めくくりにふさわしい情熱と充実感が満ちあふれています。……というように、本当

に完成された曲の構成なのです」
シューマンの〈幻想曲〉と、まるで対照的ですね。
「たしかに2人の音楽性は違っていますが、とくにシューマンの〈幻想曲〉とシヨパンの〈ソナタ第3番〉は、両作品ともロマンの極限美ですが、ある意味では『感情の極致』と『理の極致』のような、対照的な作品でもあります。ロマンの

ピアノ曲を象徴する、大傑作の2作品なのです。私の『一生弾き続けたい曲』という思いはそれとして、ロマンの最高の2曲、それも対極的な個性を持つこの2曲をぜひお聴きいただけたらと思っています」
(取材・記事 大阪新音)
*インタビューは2023年10月大阪府内で行いました。